

2018年度 NPO 法人ブリッジフォースマイル 事業報告

1、総括 ※プログラム実施報告は、「自立支援白書 2018」をご参照ください。

2018 年度は、前年度に引き続き、これまで作り上げ、運用してきた仕組みやルールを、時代の変化に合わせて再構築いたしました。すでに事業として定着し、習慣化していることを変えることは難しく、課題と変更点を明

らかにしていくプロセスが欠かせません。認識をすり合わせるための話し合いを重ね、関係者の納得感を得ながら、進めることができました。これからも、時代に合わせて柔軟に対応できる組織でありたいです。

2、トピックス

■「つながるサポーター(略称:つなサポ)」制度を新設

活動以外の場でも退所者とサポーターが安心してつながり、緩やかに見守ってもらえるように、退所者とサポーターとの交流ルールの見直しを行いました。

「措置解除された 18 歳以上の支援対象者」に対して、サポーターとしての活動時間や受講した研修など一定の条件を満たしたサポーターを「つなサポ」と認定し、「つなサポ」のみ上記支援対象者との私的交流可能としました。経済面や身体の安全に関わるトラブルを把握した場合には 48 時間以内に報告をしてもらい事務局が早期に情報の把握ができるようにしています。

■よこはま Port for 運営方針変更

2012 年から横浜市の受託により運営を行っているよこはま Port for の運営方針を全面的に見直しました。変更のポイントは、「措置解除後 10 年を目安に卒業すること」と「より多くの方が利用できること」を目指すことです。自立に向けたセミナーや面談を実施し、将来支援を受けなくても安心して巣立っていけるように準備を促します。また、月間利用回数を 4 回程度にしたり、イベントなど特定の人を対象とする日を設けたりして、より多くの方が使いやすい環境となることを目指しています。

方針変更にあたっては、利用者と意見交換する場を設けたり、データを分析したりして、スタッフ間でも議論を重ね、関係者が納得感を持てるように進めることを心掛けました。

■佐賀県からの行政受託

2018 年 8 月、佐賀県より「18 歳の巣立ち応援事業」を行政受託しました。10 月には気軽に相談に立ち寄れる居場所として、「さがこんね」を佐賀駅近くに開所しました。退所を控えた高校 3 年生への継続支援計画の策定、毎月施設に出向いて中高生と交流する「出張居場所事業」、生活や就労に関する個別相談など新たな取り組みも開始しています。今年度はのべ 261 名を支援しました。2016 年 8 月の事業開始から、児童養護施設や児童相談所との良好な関係構築、活動の担い手となるボランティア育成、協力企業や関連機関、行政との密な連携を進めており、退所後不安や困難を抱えやすい若者たちへのきめ細やかで継続的な支援体制を築いていきます。

■新研修(スキルアップ研修)

2018 年度より、サポーター向け研修制度をリニューアルしました。これまで『自立サポートスタッフ養成講座』として実施していた 4 研修も一部リニューアルしながら軸としては変えず、新たに 10 種の研修を開発、外部講師のご協力も得ながら計 15 回、軸となる 4 研修を含めると計 31 回の研修を開催しました。また、研修制度リニューアルに伴って、各プログラム参加に伴う研修修了条件も見直したため、2019 年度の活動に向けて非常に多くの方に受講いただくこととなりました。体験型の研修も多いため、体感的に理解できると好評をいただく一方で、少し専門的すぎる内容の研修もあったことから、サポーターにとって、より実践的な内容となるよう改良を重ねていきます。